BOOK 連動

「へら鮒コンプリートTV」も好評配信中！

独自映像もあるよ！

「マニアックTV」

- ただひたすら桟橋下のへら鮒にエサをやり続ける動画
- ウキのアタリだけを撮影した動画
- ただひたすら水中動画

ほか、ウキの動き、エサ調整、振り込み、オモリの巻き方でどう沈み方が変わるか、仕掛け作り、底取り、エサ作りなど、今までと違う目線でへら鮒釣りをみる面白みのある動画。

「チャレンジTV」

- エサの配合、単品使いでどこまで釣れるか？
- ウキの種類、玉ウキでどこまで釣れるか、チヌの棒ウキでどこまで釣れるか？

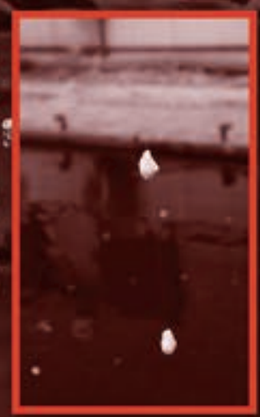
など、これで釣れないの？という疑問に実際にチャレンジする動画。

マルキユー株式会社 〒363-8509 埼玉県桶川市赤堀2-4 TEL.048-728-0909
ホームページアドレス http://www.marukyu.com/
釣れるヒント満載!! へら鮒天国
マルキユーへら鮒メールマガジンも、お申込はこちらから。http://www.marukyu.com/herabunatengoku/
MARUKYU TV

へら鮒釣りをひとりで理解できるBOOK&TV 連動プロジェクト

へら鮒 コンプリートBOOK

Learn Fishing Techniques at Tsutteku.
釣っテク
MARUKYU



CONTENTS

1 へら鮒釣りの道具 ―― 2～3
2 仕掛けの作り方 ―― 4～7
3 へらウキの使い方 ―― 8～9
4 へら鮒釣りの基本動作 ―― 10～11
5 エサの作り方 ―― 12～15
6 釣り方の説明 ―― 16～18
7 釣り場でのマナー・用語集 ― 19

1 へら鮒釣りの道具

へら鮒釣りの道具は色々なものがあります。釣り場（管理釣り場・釣り堀・野釣り）によって必要になる道具は変わりますが、ここでは、釣りができる最低限必要な道具を紹介します。

竿

へら鮒釣りでは、"へら竿"と呼ばれる専用の竿を使います。長さは1尺刻みに何種類もありますが、まずは8尺を手に入れるとよいでしょう。

道糸

およそ竿の長さと同じになるメインラインです。太さは季節やねらうへら鮒の大きさによって変えますが、一般的な号数は0.8～1号。この号数を基準とします。

ハリ

魚を掛ける道具でエサもこのハリに付けて投入します。エサの種類や魚の大きさなどによって大きさを使い分けます。ハリスとハリがあらかじめ結んであるセットもありますので、最初はそれを利用するとよいでしょう。

へらウキ

へら鮒釣りはウキの動きを見て釣ります。へらウキは繊細にできており、水中にあるエサに反応した魚の動きを表現してくれます。エサを食った合図であるアタリ、寄ってきた合図であるサワリなどを見極めて釣ります。このウキの動きを読んで釣るのが、へら鮒釣りの醍醐味でもあります。

ハリス

へら鮒釣りでは2本のハリで釣るのが一般的です。ハリをハリスと結び、それを道糸に取り付けたヨリモドシに結びます。号数は道糸の半分を目安にします。

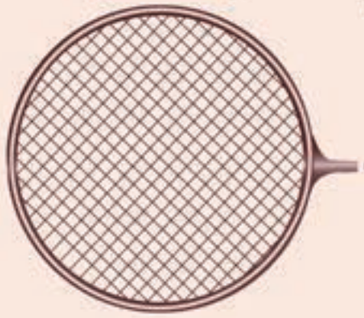
ウキゴム ウキ止めゴム

道糸にウキを取り付けるための小物です。使い方は仕掛け作りの項を参照ください。

ヨリモドシ

道糸とハリスを接続するための小物です。使い方は仕掛け作りの項を参照ください。

玉網



エサ

へら鮒釣りは、麩やグルテンに水をくわえて混ぜ合わせて使う練りエサを使用します。釣り方に合わせて様々な種類があります。使い方はエサ作りの項を参照ください。

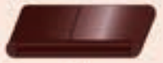
エサボウル

プラスチック製の洗面器のようなものです。この中でエサを作ります。水をくんでおいて手を洗ったりもするので、3個以上は用意しておきます。

計量カップ

エサを作る時に、エサの量や水量を正しく計るために使用します。サイズ違いを揃えておくと便利です。

板オモリ

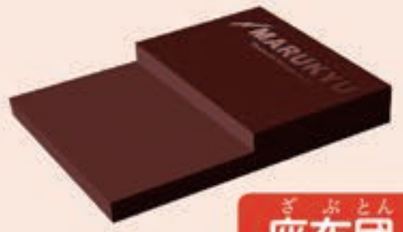


へら鮒釣りで使うオモリは板オモリが一般的です。それはハサミで切って使えるのでオモリ量の調整が簡単だからです。使い方は仕掛け作りの項を参照ください。

ハサミ

糸や板オモリを切るための道具。かならず用意しましょう。

座布団（クッション）



へら鮒釣りは長い時間座って釣りをするので、座布団を使用します。専用のクッションが市販されており、段差がついたものとついてないものがあります。

釣った魚をすくうための網です。へら鮒釣りでは掛けた魚を寄せてきて、玉網ですくってキャッチします。玉網はタモとも呼びます。

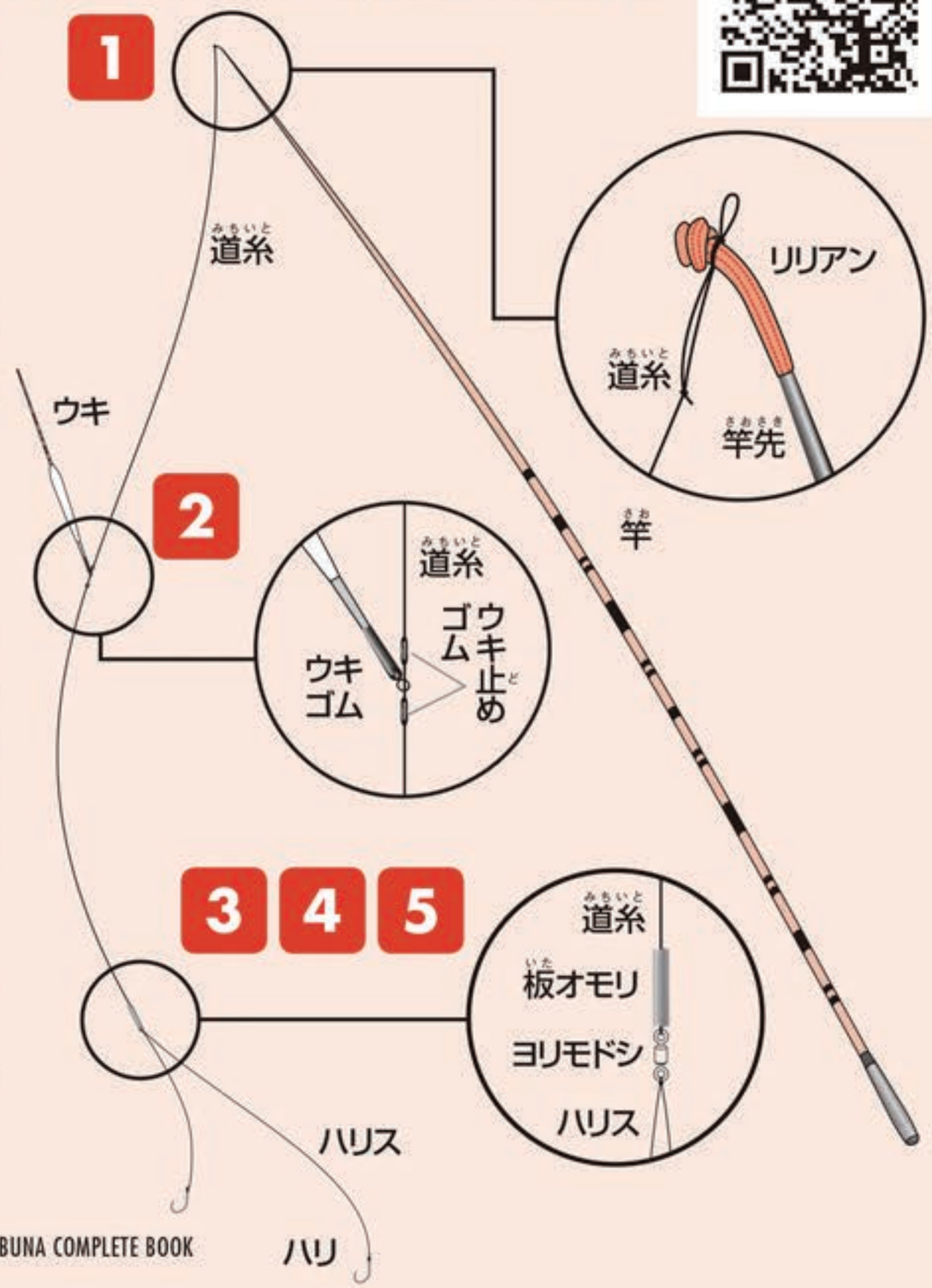
竿掛け・万力

へら鮒釣りでは、エサを投入後に竿を持ってアタリを待ちます。この時、竿を置いておくための道具が竿掛けです。そしてこの竿掛けを固定するための道具が万力です。竿掛けと万力はセットで揃えるとよいでしょう。

2 仕掛けの作り方

へら鮒釣りの仕掛けは非常にシンプルにできています。むずかしいことはありませんので、慣れれば誰にでも簡単にできます。あせらずていねいに作るよう心がけましょう。

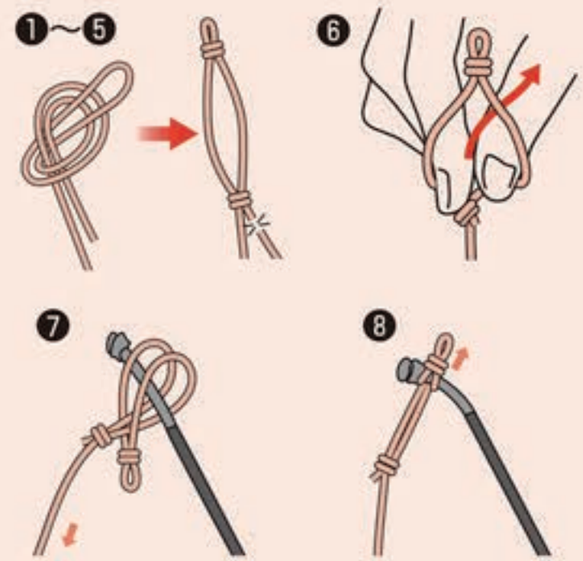
へら鮒釣りの基本的な仕掛け

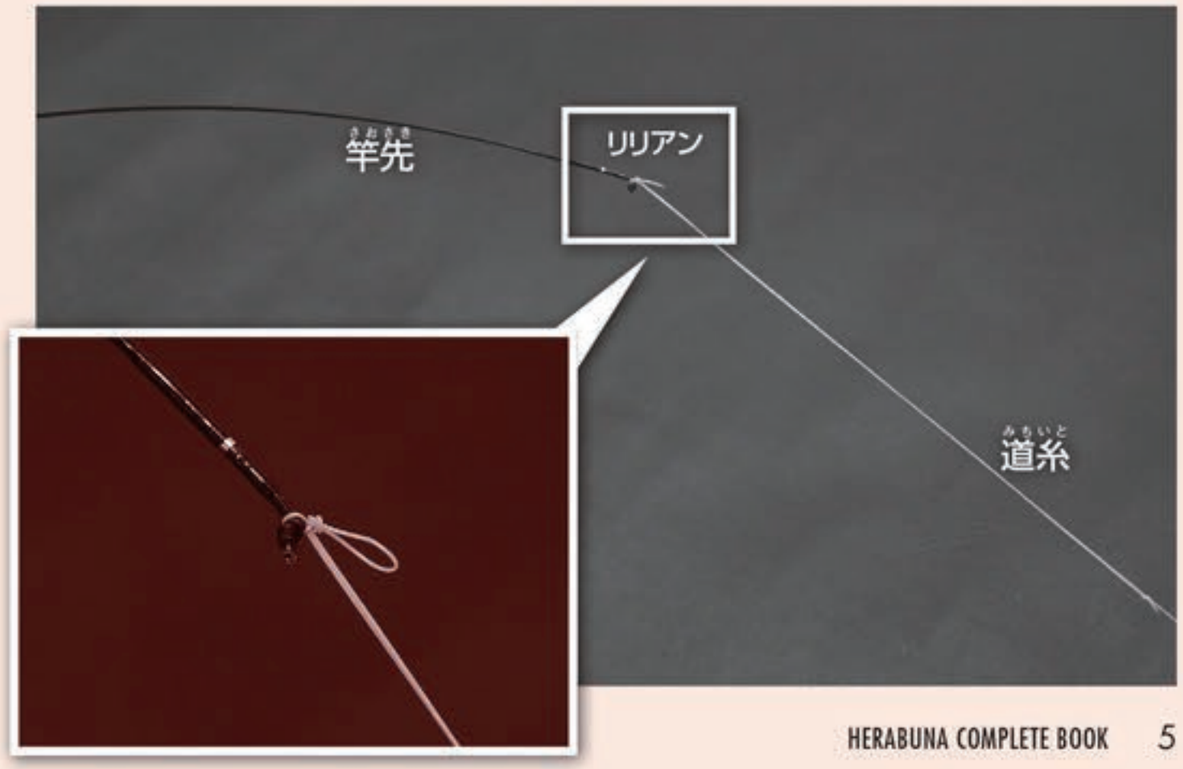


1 道糸を竿先に付ける

道糸で輪（チチワと呼ぶ）を作り竿先に結びます。

❶道糸を30㎝ほどの長さで折り返し、片方の指で2本を押さえる。
❷折り返した部分をもう一方の手で持ち、手前に倒すようにして円を作る。
❸円の交差した部分を押さえ、折り返した頂点を円の下から通す。
❹通した折り返しの頂点を引っ張り、結び目を固定する。そのあとで余分な糸を切る。
❺同じ要領で、輪の先端に小さな輪を作る。これで大きい輪と小さい輪の2つができる。
❻大きな輪の中に親指と人差し指を入れ、本線をつまんで輪の中に引き入れる。
❼❻でできた輪に竿先を入れて本線を引いて締める。
❽小さい輪を引くと簡単に外すことができる。

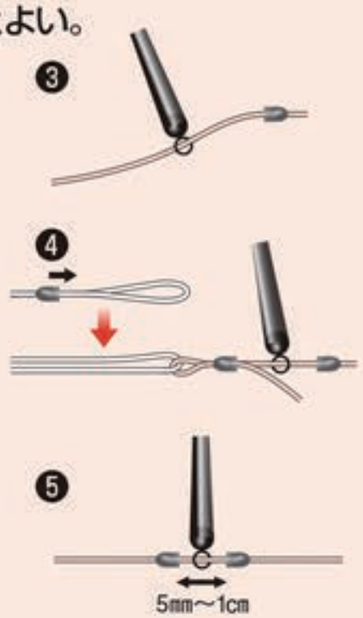




2 ウキ止めゴム、ウキゴムを道糸に通す

道糸にウキを取り付けるためのウキ止めゴム、ウキゴムを道糸に通す。浅ダナ釣りの場合は、竿先に道糸を結んだあとで、チョーチン釣り、底釣りの場合は、その前に作業するとよい。

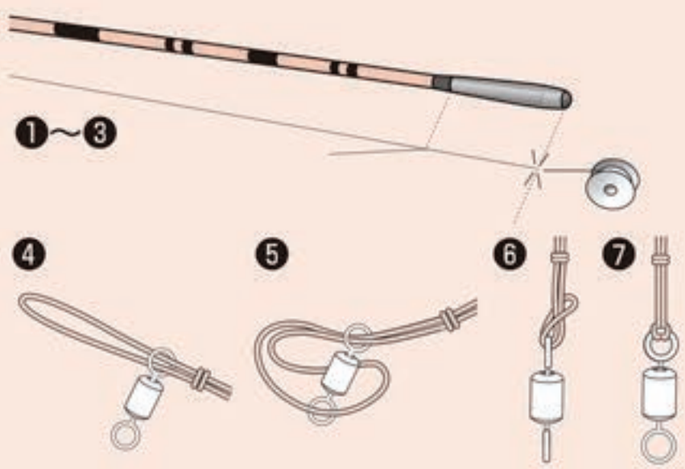
❶市販のウキ止めゴムを1つ道糸に通す。ウキ止めゴムには細いハリガネが二重に通してあり、その輪に道糸を通す。
❷ゴムの部分を押さえながら、ハリガネを引っ張りゴムに道糸を通す。ウキを固定する位置にゴムを移動する。
❸ウキゴムに付いている輪に道糸を通す。
❹もうひとつのウキ止めゴムを同じように道糸に通し移動させる。
❺2つのウキ止めゴムの間を5㎜～1㎝ほど空けておく。



3 道糸にヨリモドシを結ぶ

道糸とハリスを結ぶ連結具となるヨリモドシを道糸と接続します。

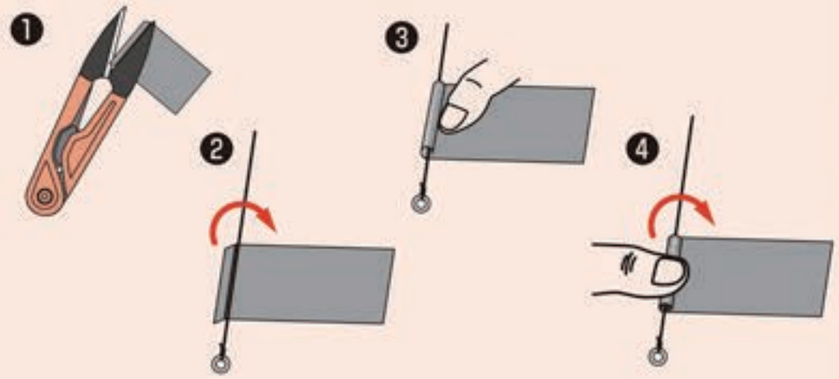
❶道糸を竿の握り一杯の長さで切る。
❷握りの上部にヨリモドシの位置がくるように、その位置で道糸を折り返す。
❸竿先に結ぶ時と同じ要領で小さい輪をひとつ作る。余分な糸は切る。
❹ヨリモドシの輪に小さい輪を通す。
❺通したあと、輪を広げてその中にヨリモドシを入れる。
❻ヨリモドシを持って固定した状態で道糸を引っ張る。
❼ヨリモドシの円にしっかり固定されたらできあがり。



4 道糸に板オモリを巻く

ヨリモドシの上部の道糸に板オモリを巻きます。

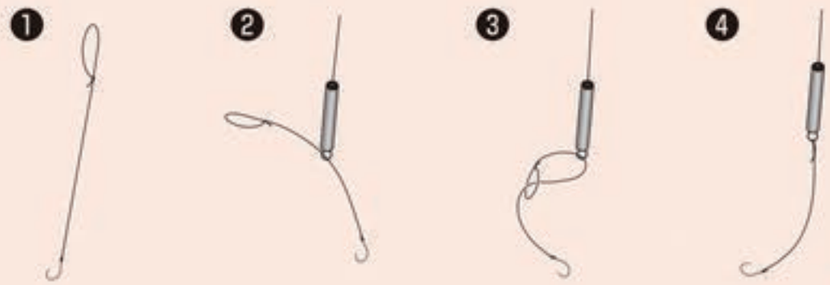
❶3㎝程度の大きさに板オモリを切る。
❷板オモリの端にハサミで折り目を付ける。
❸その折り目に道糸をはさむ。
❹折り込んだオモリの端を、ツメで押し込みきれいに整える。
❺残りのオモリを丸め、平らなところで転がし真円に近づける。
※オモリの巻き方が雑だと、仕掛けが絡まったりしますので、ていねいに巻きましょう。



5 ヨリモドシにハリスを結ぶ

ヨリモドシに長さの違うハリスを2本結びます。

❶ハリスの長さを決めて輪を作る。
❷ヨリモドシに輪の部分を通す。
❸輪にハリを通してゆっくり引っ張る。
❹ヨリモドシとの接合部を締め込む。これを2本結ぶ。

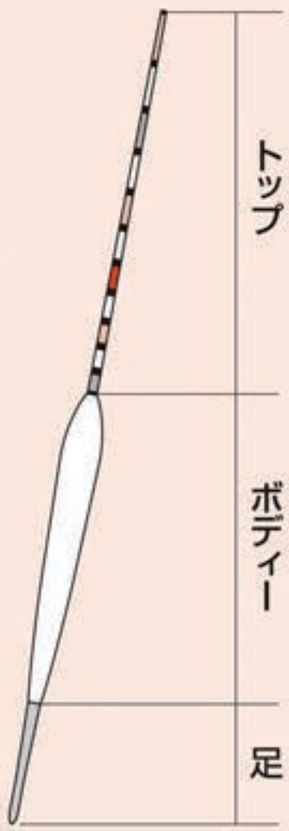


3 へらウキの使い方

へらウキの動きを見て、読んで釣るのがへら鮒釣りの最大の魅力です。つまり、へらウキはへら鮒を釣るうえで、非常に重要な道具です。それを有効に使うための基礎知識を覚えましょう。

1 へらウキの説明

へらウキは大まかに3つの部分からできています。上から赤や黄色などの色が付いた細長い部分をトップ、次に全体の中で一番太い真ん中の部分をボディー、下の部分を足と呼びます。



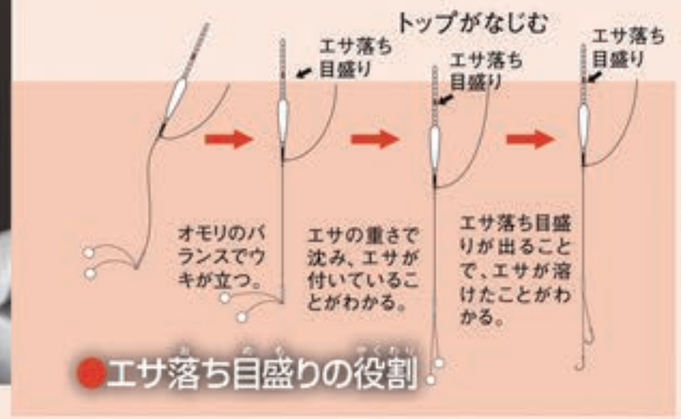
右から浅ダナ釣り向き、チョーチン釣り向き、底釣り向きのウキのタイプ。へらウキは水深に合わせたボディーサイズを選ぶことが基本。

2 へらウキの種類

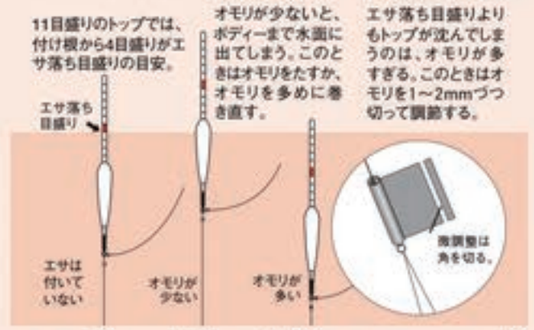
へらウキには様々な種類があります。釣り方を大まかに3つに分けますと、浅ダナ釣り、チョーチン釣り、底釣りとなり、それぞれの違いは釣る（ねらう）水深（タナ）となります。水深が浅ければウキは小さめ、深ければ大きめが基本です。目安は、浅ダナ釣り＝ボディー5～7㎝、チョーチン釣り＝ボディー10～15㎝、底釣り＝細めのボディー10～15㎝となります。

3 エサ落ち目盛りの決め方

エサ落ち目盛りとは、エサが付いていない状態でバランスを取った時に基準とするトップの目盛りのことです。基本は、トップ全体の約4分の1が沈んだあたりに設定します。この調整は板オモリの量で行ないます。

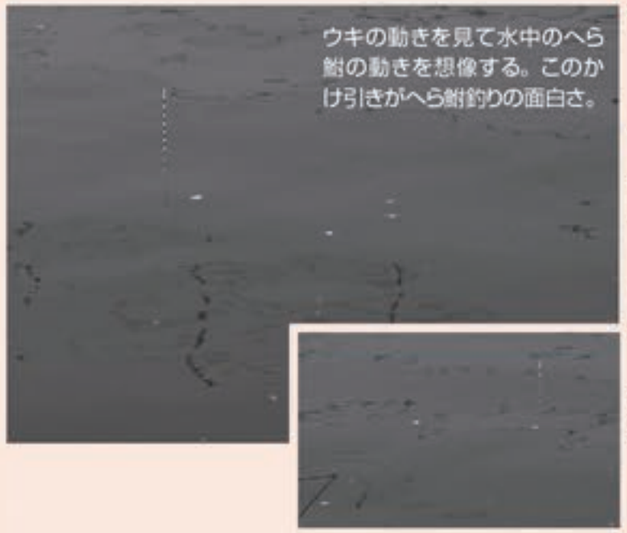


●オモリの調整方法



4 ウキの動きナジミ

エサを付けて仕掛けを投入すると、ウキは沈みます。先ほどのエサ落ち目盛りより沈めば、エサが付いている証拠です。このエサが付いた状態でウキが沈むことをナジミと呼びます。このナジんだ状態からエサが徐々に溶けて少なくなってくると、ウキは少しずつ浮いてきます。これがナジミの基本的な動きです。


ウキの動きを見て水中のへら鮒の動きを想像する。このかけ引きがへら鮒釣りの面白さ。

5 ウキの動きサワリとアタリ

エサ打ちを何度も繰り返していくと、ナジミの動きに変化がでます。ナジむスピードが遅くなったり、ウキが上下動します。これは魚が寄ってきたという合図で、サワリと表現します。このサワリは、そろそろアタリが出ますよという合図でもあり、このサワリのあとに出る力強く鋭い動き（ウキが水中に引き込まれる）がアタリで、この動きが出たら合わせます。

4 へら鮒釣りの基本動作

ここでは、へら鮒釣りに欠かせない基本動作である、振り込み、アワセ、取り込みなどを覚えてください。こういった基本動作は釣果にも影響しますので、しっかり身につけましょう。

1 仕掛けの振り込み

振り込みとは、エサの付いた仕掛けを投入することです。浅いタナの振り込みは、穂先～ウキの間が広いので、この距離だけ沖に振り込みます。上手くいかない時は立て膝で行なうとやりやすいです。穂先～ウキの間が狭いチョーチン釣りでは、目の前にエサを落とします。竿を竿掛けに置いた位置の少し先に落とします。

少し沖に打つ浅ダナ釣りの振り込み。慣れないうちは立て膝で構え、その位置からエサを持った手を離すと同時に、竿を少し上に上げる。これだけで充分。エサを飛ばすのではなく、運ぶイメージだ。

2 アワセ方の基本

アワセは竿を大きく上げる必要はなく、肩のラインよりも低い位置まで上げればOKです。構えた位置からやや前方に鋭く上げ、その位置で止めるイメージで行ないます。

構えた位置からやや前方へ腕を伸ばすイメージがアワセの基本。竿を上げるのではなく、腕を前に突き出してそこで止める。これだけで充分だ。

3 アワセ方のコツ

竿を持って構える時に、手のヒラが上を向いていると（下から持つ）どうしても手首を返してしまい、竿が大きく上がってしまいます。上から被せるように上の甲側が上になるように握ると、必要以上に強くアワセなくてすみます。

アタリを待つ時の構えを意識しよう。手のヒラが上を向いていると手首を返してしまいがちなので、上から被せるように握りたい。

4 アワセ方の悪い例

手首を返してしまうと竿が大きく上がってしまい、ヒットした時はよいですが、空振った時は仕掛けが飛びだしてしまいます。そうすると、仕掛けが絡んでしまうトラブルにもつながりますので、アワセの時に手首を返さないことを意識しましょう。

手首だけを返してアワセてしまうとトラブルのもと。アワセた時は、手首はまっすぐになるようにしたい。

5 魚の取り込み

へら鮒がヒットしたら魚を寄せますが、強引に引っ張って寄せるのではなく、魚の引きを楽しみ、動きが少し落ち着いたところで少しずつ肘を上げるようにして引くと、魚が水面に顔を出します。そしたらテンションを緩めないように竿を後に倒すように寄せて玉網ですくいます。

魚を沖で浮かせて水面をすべるように引いてくるとスムーズに取り込める。

6 ハリの外し方

玉網ですくったあと竿をおき、道糸を持ってラインをまっすぐにしてハリの位置を確認します。へら鮒釣りのハリはスレバリですから、ハリの軸側を持ってハリのカーブと同じような軌道で引くと簡単に外れます。ハリを外したら魚を逃がします。

へら鮒のハリ掛かりの代表例（左）。この状態でハリの軸側を持って外すと簡単だ。

5 エサの作り方

1 バラケ・ダンゴエサの作り方

（使用エサ＝「パウダーベイトヘラ」）

「パウダーベイトヘラ」、エサボウル2個、計量カップ2個（エサ用と水用）、タオルを用意する。

計量カップすりきりでエサを5杯エサボウルに入れ、そこに同じ大きさの計量カップで水をすりきり1杯入れる。

エサを軽量カップで量るときはすりきりで。少なかったり、山盛りはNG。

エサをかき混ぜる時は指を開いて立てるようにする。

均一に混ざったらできあがり。ムラがあったり、粉の部分が残っているのはNG。

へら鮒釣りで多用される両ダンゴやセット釣りのバラケエサは麩に水を注いでかき混ぜて作ります。基本は粉5に水1で、ポイントは水を注いだら均一に混ぜること。そして、そのエサを丸めやすい状態にするために、押し練りをすることです。

2 バラケ・ダンゴエサの丸め方

できあがったエサの半分ぐらいを手の甲側で押して固めます（この動作を押し練りという）。押し練りしたエサを適量をつまみ、両手の指を使って形を整えるか、手のヒラに乗せてダンゴを作るように丸めます。慣れてくれば、片方の指だけでも丸められるようになります。

丸めやすい硬さになるまで、何度か押し練りをする。

3 エサの付け方

丸めたエサをハリに付けます。エサ付け方法はいくつかありますが、まずは慣れが必要です。ここでは、1番簡単で確実なエサの上からハリを刺して押し込む方法を紹介します。コツは、ハリがエサの真ん中にくるようにすることです。

押し込む

丸めたエサの上からハリを刺し込む。

飛び出ているハリを押し込む。

押し込んだ部分を包むように指で数回押さえる。

エサ全体の形を整える。

ハリスとエサがまっすぐになる。また、ハリスを持ってエサを振ったときに落ちなければOK。

4 エサの付け方の悪い例

ハリにエサを付ける時の最大のポイントはハリからエサがとれないようにすること。エサからハリが飛び出ていたり、エサの中心からハリがずれていたりするととれやすくなりますので注意しましょう。

5 グルテンエサの作り方

（使用エサ＝「凄グル」）

グルテンエサとは、グルテンとフレーク状のマッシュポテトをブレンドした製品で、へら鮒の活性が落ちる晩秋～春先のほか、新べらねらいで使うエサです。2つのハリ両方ともにグルテンを付ける両グルテン、下バリだけに付けるグルテンセットで使います。
作る時のポイントは、水を注いだあとにしっかり混ぜること。少し固まりだしてもよく混ぜることで均一の仕上がりとなります。

軽量カップにすりきりでエサを1杯入れる。

同じ大きさの計量カップで水をすりきり1杯入れる。

親指、人差し指、中指の3本でよくかき混ぜる。

充分に混ぜたらボウルのはしに寄せて置く。

水を吸っていない部分があると仕上がりにムラがでるのでNG。

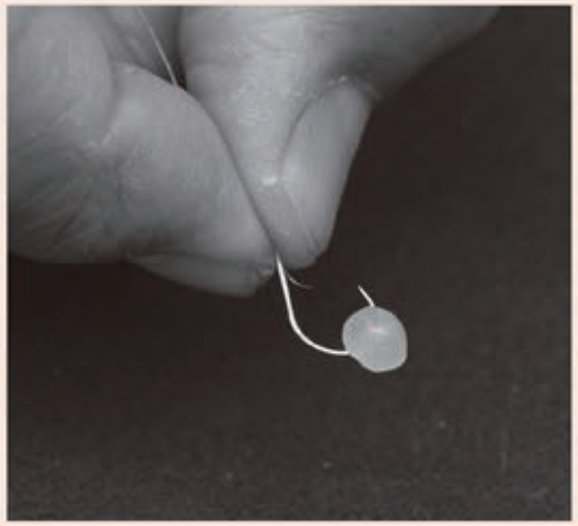
しばらく放置したらひっくり返す。ひっくり返したら、はしからつまんで丸めて使う。

※グルテンエサは種類によって水量が変わります。

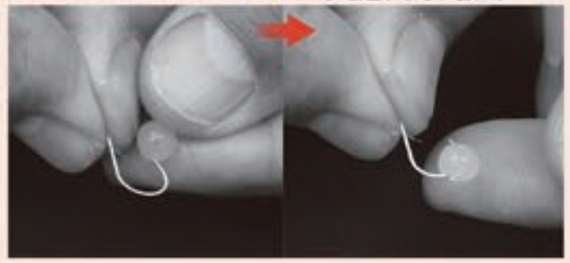
6 「力玉」の付け方

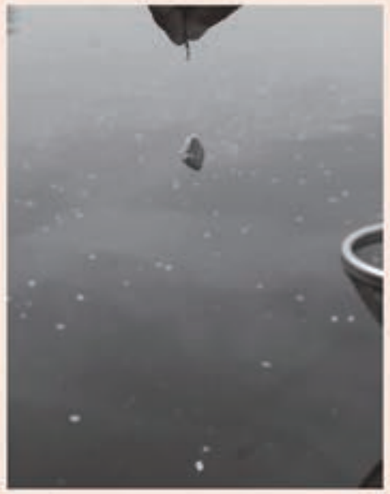
「力玉」とは、ウドンのセット釣りで使うくわせエサのことです。小さい丸い固形物で、そのままハリに刺して使えるので便利です。ハリを刺す時は、なるべくハリから抜けないように、丸い「力玉」の中心をとおし、ハリ先を貫くように外へ出すことがポイントです。

「力玉」はハリに刺すだけで使えるくわせエサなので非常に便利だ。

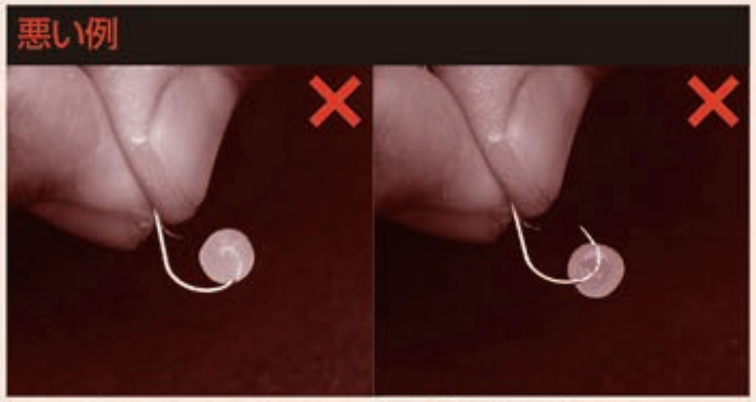


片方の指で「力玉」をつまみ、もう一方の指でハリをつまむ。「力玉」の中心にハリ先を刺してハリを通すように抜く。





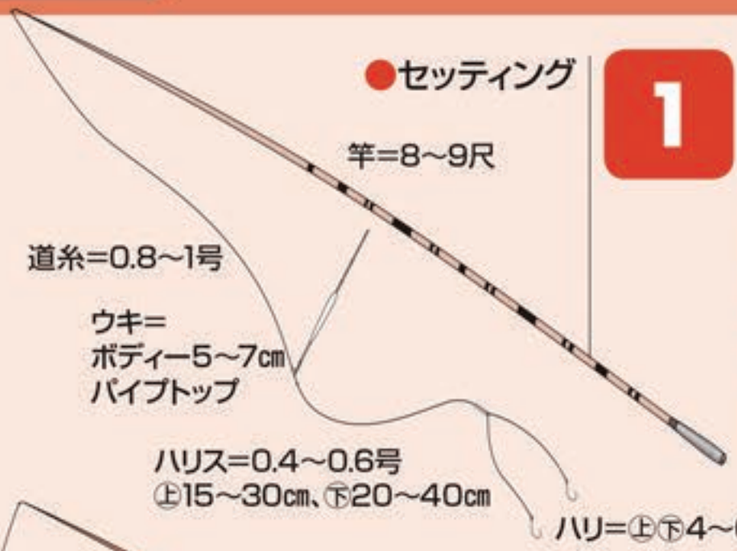
悪い例



ハリ先が「力玉」から飛び出ていない。ハリ掛かりが悪くバラシにつながりやすい。

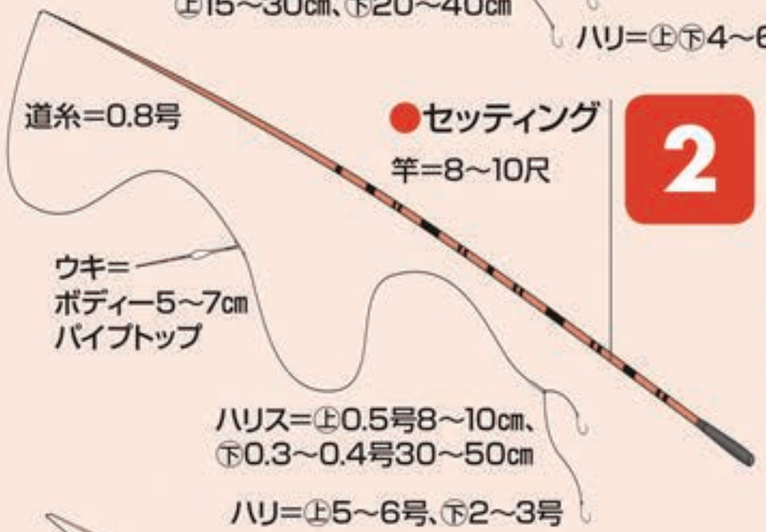
ハリが「力玉」の中心を通っていない。「力玉」がハリから取れやすくなってしまう。

6 釣り方の説明



1 両ダンゴの浅ダナ釣り

浅ダナとは、一般的に1m前後の水深をねらう釣り方です（管理釣り場では1m規定がある釣り場もある）。それを両ダンゴでねらうので、へら鮒にある程度の活性がある時期の釣り。目安としては5～10月、特に夏場が最盛期となります。手返しよくすれば数多く釣れます。

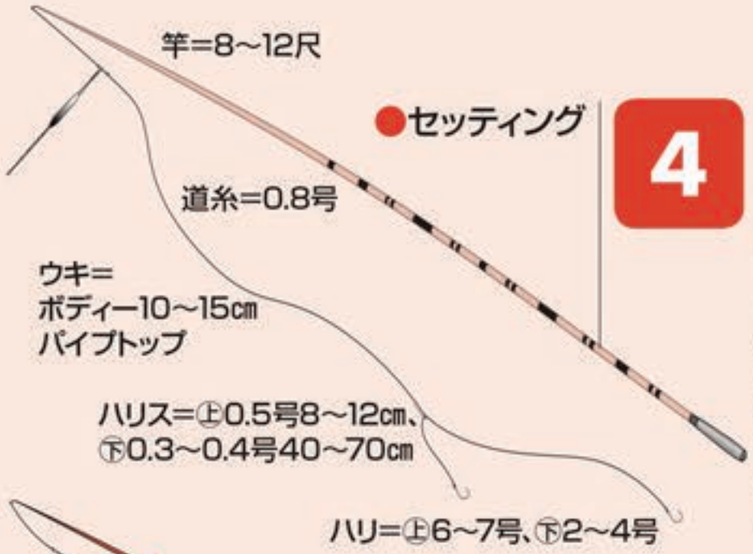


2 「力玉」セットの浅ダナ釣り

へら鮒の活性が下がる冬場や、混雑などによる食い渋り時には、くわせエサに「力玉」を使ったセット釣りが有効です。上バリに付けたバラケエサでへら鮒を寄せて、くわせエサの「力玉」を吸い込むという図式です。「力玉」がハリから取れなければ待てるのもメリットです。

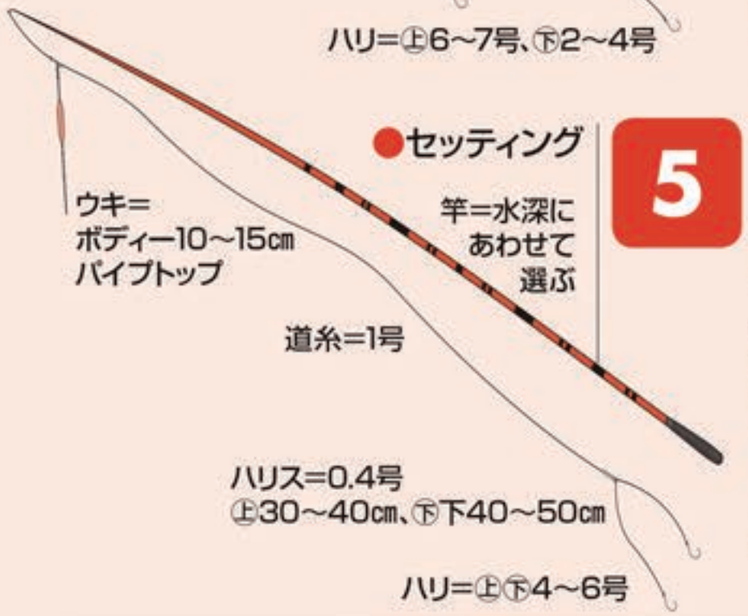
3 両ダンゴのチョーチン釣り

ウキを穂先に近い位置にセットして深いタナをねらうのがチョーチン釣りです。浅いタナにくらべて、ねらったタナにしっかりエサを届けていれば魚がたまるので、たくさん釣れるようになります。また、良型が揃う傾向もあり、夏から秋がベストシーズンです。



4 「力玉」セットのチョーチン釣り

「力玉」セットの浅ダナ釣りと同様にへら鮒の活性が下がる寒い時期や食いが渋い時に有効です。寒い時期は、魚が浮きにくいので、より効果的な釣り方です。また、両ダンゴのチョーチン釣りと同じように毎投、同じ所へエサを打てるので、魚をためやすくもあります。



5 両ダンゴの底釣り

文字どおり、エサを底に付けて釣る釣り方です。へら鮒は水温の安定している底に着くことも多く、活性の高い夏場をのぞけば有効な釣り方です。釣りが決まると毎回同じパターンで釣れ続きますし、時には超がつくような大型が釣れるのも大きな魅力です。

タナの取り方

❶セッティングが決まったら、両バリにタナ取りゴムを付けて振り込む。
❷水面にウキのエサ落ち目盛りより出る位置に調整する。もしウキが沈む場合はウキを上（竿先方向）に上げる。逆にウキが水面に出すぎている場合はウキを下（握り方向）に下げていく。
❸ウキの位置が決まったら確認のためにタナ取りゴムを外し、空バリ（エサが付いてない状態）で仕掛けを投入し、水面にエサ落ち目盛りが出ていれば OK。

底釣りはエサを打つ前にタナ取りと呼ばれる水深を測る作業をする必要があります。

タナ取りゴムに両バリを付けて水深を測る。

水面にエサ落ち目盛りが出るように調整する。

季節毎の釣り方別・基本セッティング(管理釣り場向け)

	季節	竿	道糸	ウキ	ハリス	ハリ
両タンゴの浅タナ釣り	春(4～5月)	8～9尺	0.8	ボディー5～7㎝ パイプトップ	0.4号㊤30～35㎝、㊦35～45㎝	㊤㊦4～5号
	夏(6～9月)	8～9尺	1.0	ボディー5～7㎝ パイプトップ	0.5号㊤20～30㎝、㊦30～40㎝	㊤㊦5～6号
	秋(10～11月)	8～9尺	0.8	ボディー5～7㎝ パイプトップ	0.4号㊤30～35㎝、㊦35～45㎝	㊤㊦4～5号
	冬(12～3月)	／	／	／	／	／
「力玉」セットの浅タナ釣り	春(4～5月)	8～9尺	0.8	ボディー5～7㎝ パイプトップ	㊤0.5号8～10㎝、㊦0.3号30～40㎝	㊤5～6号、㊦2～3号
	夏(6～9月)	8～9尺	0.8	ボディー5～7㎝ パイプトップ	㊤0.5号8～10㎝、㊦0.4号25～30㎝	㊤6～7号、㊦3～4号
	秋(10～11月)	8～9尺	0.8	ボディー5～7㎝ パイプトップ	㊤0.5号8～10㎝、㊦0.3号30～40㎝	㊤5～6号、㊦3号
	冬(12～3月)	8～10尺	0.8	ボディー5～7㎝ パイプトップ	㊤0.5号8～10㎝、㊦0.3号35～50㎝	㊤5～6号、㊦2～3号
両タンゴのチョーチン釣り	春(4～5月)	8～10尺	1.0	ボディー10～15㎝ パイプトップ	0.5号㊤40～50㎝、㊦50～70㎝	㊤㊦6～7号
	夏(6～9月)	8～10尺	1.2	ボディー10～15㎝ パイプトップ	0.6号㊤30～50㎝、㊦40～70㎝	㊤㊦7～8号
	秋(10～11月)	8～10尺	1.0	ボディー10～15㎝ パイプトップ	0.5号㊤40～50㎝、㊦50～70㎝	㊤㊦6～7号
	冬(12～3月)	／	／	／	／	／
「力玉」セットのチョーチン釣り	春(4～5月)	8～10尺	0.8	ボディー10～15㎝ パイプトップ	㊤0.5号8～12㎝、㊦0.3号40～70㎝	㊤6～7号、㊦2～3号
	夏(6～9月)	8～9尺	0.8	ボディー10～15㎝ パイプトップ	㊤0.5号8～10㎝、㊦0.4号20～40㎝	㊤6～7号、㊦3～4号
	秋(10～11月)	8～9尺	0.8	ボディー10～15㎝ パイプトップ	㊤0.5号8～12㎝、㊦0.3号40～70㎝	㊤6～7号、㊦2～3号
	冬(12～3月)	8～12尺	0.8	ボディー10～15㎝ パイプトップ	㊤0.5号8～12㎝、㊦0.3号50～70㎝	㊤6～7号、㊦2～3号
両タンゴの底釣り	春(4～5月)	水深に合わせる	1.0	ボディー10～15㎝ パイプトップ	0.4号㊤30～40㎝、㊦40～50㎝	㊤㊦4～6号
	夏(6～9月)	／	／	／	／	／
	秋(10～11月)	水深に合わせる	1.0	ボディー10～15㎝ パイプトップ	0.4号㊤30～40㎝、㊦40～50㎝	㊤㊦4～6号
	冬(12～3月)	水深に合わせる	1.0	ボディー10～15㎝ パイプトップ	0.4号㊤30～40㎝、㊦40～50㎝	㊤㊦4～6号

7 釣り場のルール

管理釣り場や釣り堀にはルール（規定）が設けられています。そのルールを守るのはもちろん、ほかの釣り人に迷惑になるような行為は慎みましょう。

●基本ルール＝へら鮒釣りではハリが口に入っていない場合（スレ）は釣果として認められません。

●竿規定＝竿の長さに制限があります。例）竿８～18尺まで

●タナ規定＝ねらうタナの規定。自由ならどんなタナでもOKです。関東の管理釣り場では、ウキ止め～第１オモリまで1m以上という釣り場もあり、仕掛けのウキ止めゴム～板オモリの間を1m以上離さなければいけません。

●エサ規定＝使えるエサの規定です。へら鮒釣りでは生きエサは禁止です。また、管理釣り場では、角麩（オカメ）禁止の釣り場もあります。

●マナー＝これは一般的な常識でもありますが、ゴミは指定のゴミ箱に捨てる、桟橋は走らないなど、他人に迷惑をかけるような行為は慎んでください。

●入場の仕方＝事務所での受付、料金の払い方などは動画を参照しましょう。

用語集

【あ】

●浅ダナ＝水面～1mぐらいまでのタナ。水面直下50㎝以内をカッツケと呼ぶ。

●アッパー＝スレ掛かりのひとつで、下アゴの外側にハリが掛かること。

●アタリ＝へら鮒がエサを食った時にウキに表われる鋭く力強い下方向への動き。

●イトズレ＝水中にあるラインに魚が触れたりすることでラインが動き、それがアタリのようにウキに伝わること。イトズレアタリなどと言う。

●ウワズリ＝ねらうタナ（水深）よりもへら鮒が上がってしまうこと。エサのバラけすぎなどで起こる。

●エサ落ち目盛り＝エサが付いていない状態でウキが立った時に水面に出る目盛りのこと。

●押し練り＝エサ持ちをよくするため、エサを押して固めること。

●落ち込み＝～ウキが立ってからエサが落下していきナジミ切るまでの間のこと。

【か】

●カケアガリ＝岸側が浅く沖が深い底の傾斜のこと。

●食い上げ＝へら鮒がエサを食ってウキを持ち上げることで、エサ落ち目盛りよりも下の目盛りやウキのボディーが水面に出ること。

●くわせエサ＝セット釣りで下バリに付けるエサ。「力玉」やグルテンを使う。

【さ】

●サワリ＝へら鮒がエサに寄ってきたことでウキに表われる弱い上下動。

●セット釣り＝上バリにバラケエサ、下バリにくわせエサを付けた釣り方。

●新べら＝養魚場から釣り場に放流されたばかりのへら鮒。放流は秋に行われる。

【た】

●タッチ＝エサの状態を表わす言葉。軟らかい、硬いなどがある。

●タナ＝へら鮒をねらう水深のこと。浅ダナ、タナ1mなどと使う。

●チョーチン釣り＝ウキの位置を竿先近くにセットして釣る釣り方。

【な】

●ナジミ＝エサの重さによってウキがエサ落ち目盛りより沈むこと。

●野釣り＝自然の湖沼や川で釣りをすること。

【は】

●バラケエサ＝セット釣りで上バリに付けるエサ。へら鮒を寄せる目的を果たす。

●バラシ＝ハリ掛かりした魚からハリが外れてしまうこと。

●ブレンド＝特性の違う数種類のエサを配合すること。

【ら】

●ラフ付け＝エサの表面をていねいに整えないエサ付け。

【わ】

●割れ落ち＝ナジんだエサが一気にハリから抜けてしまうこと。